

# 2023年度北海道YMCA事業方針・計画

公益財団法人北海道YMCA

理事長 武藏 学

総主事 秋葉 聡志

## 方針

2020年2月から全世界に拡大した新型コロナウイルス感染症による社会的な影響は、2020年度～2022年度にかけて、すでに3年に及ぼうとしている。コロナパンデミックが全く想定されていない中で策定された「北海道YMCA中期計画2023（2020～2023年度）」は、スタートからコロナ禍の影響を大きく受ける中で3年度が経過し、2023年度は中期計画の最終年度となる。

2023年度は、まとめの年度として継続的に日本YMCA中期計画に示された視点とコンセプトを視野に入れつつ、地域社会に果たすべきYMCAミッションの具現化に取り組んでいく。また、中期計画2023の残された課題の達成に努力するとともに、総括的評価を行い、ポストコロナを見据えた次期中期計画の策定を進めたい。特に札幌 brunch の会館建設計画については、事業計画、資金計画、代替え施設の確保等の課題をクリアし、一層具体的な段階へと進んでいきたい。また、とち帯広 brunch は、継続して保育事業の安定運営を図り、収支相償となる事業構造を目指す。北見 brunch は、将来的に認可保育園から認定こども園への移行を検討し、施設的要件の整備に向け青少年事業と両立できる事業構造を構想化する。

## 計画

### Ⅰ 公益目的事業

#### 1. ウェルネス事業

##### (1) スポーツ活動

① ウェルネス幼少・成人事業は、一体的に管理運営し、開館時間、成人プログラムの改廃、送迎の再編等を検討し、新会館構想による事業計画を策定する。

##### (2) 地域支援活動

① 各 brunch で継続して、子育て支援、多様な体験活動、いじめ・ハラスメント防止、困難な状況にある青少年支援など、地域の課題解決を図るプログラムの顧客・実施を教会・他団体と連携して取り組む。

##### (3) 野外教育活動

① 野外事業のキャンプ、スキースクールは、コロナ対策を踏まえつつ事業規模の回復・最適化を目指す。また、プログラミングとの連携企画を研究する。

##### (4) リーダーシップ育成活動

- ① 様々なボランティア活動を通じてユースリーダーを育成し、コロナ渦により停滞したユースリーダー会の活性化を図る。
- ② スタッフ、ボランティアリーダーに対する研修をオンラインも活用して計画的に実施し、ウェルネス指導者資格等の付与を積極的に推進し資格所持率を高める。

#### 2. 国際理解・国際協力事業（公益目的事業 1）

##### (1) 国際交流活動

① ベトナムにおける教室建設プロジェクト「ベトナムボランティアワークの旅」を新たに策定した事業ガイドラインに則って再開する。また、中国成都 YMCA とのオンラインによる交流を継続する。

##### (2) 語学教育活動

① 専門学校の付帯事業として幼少英語を継続する。

### 3. 青少年支援活動（公益目的事業1）

#### (1) 幼児保育事業

- ① プレスクール、幼稚舎を一体的に管理・運営するとともに、幼稚舎は認可外保育施設の設置基準を遵守しつつ園の独自性を維持する。また、札幌市認可地域裁量型認定子ども園の設置に向け、札幌市こども未来局と連携しながら移行準備を進める。

#### (2) アフタースクール活動

- ① 日本 YMCA 中期計画を踏まえつつ全国 YMCA と歩調を合わせてブランディングを推進し、成長応援指標による伴走サポートシステムをチャイルドケア・アフタースクール事業において効果的に運用する。
- ② アフタースクールは、伴走サポートシステムの効果的運用により特徴付けるとともに、週当たりの利用回数により対象を分け、放課後児童クラブと自主事業デイケアプログラムに分離して運営する方法を検討する。

#### (3) 発達支援クラス（障害児クラス）活動

- ① 放課後等デイサービスは、現行の事業所を「主たる事業所」として、2ヶ所目となる「従たる事業所」の開設を目指す。

#### (4) 幼児・小学生等文化教養活動

- ① 多様な学びの機会として充実を図ると共に、プログラミングクラスの拡大を目指す。

#### (5) 専門学校

- ① 専門学校は、最終卒業予定学年のカナダ語学研修の実施を検討するとともに、閉校に向けた準備を進める。

## II 収益事業

### 1. その他の事業

#### (1) 貸館、物品販売、自動販売機手数料等事業

- ① 駐車場、物販等について、増収策を検討する。

## III 管理部門

### (1) 法人業務

- ① 現行各事業・プログラムの YMCA ミッションと「持続可能な開発目標 SDGs」とを関係づけながら、継続して「平和と公正」・「健康的な生活」・「質の高い教育」を重点テーマとして取り組む。
- ② 国際協力募金、ユース育成基金などの寄附金活動のネット募金化を図るとともに、地域課題の解決に取り組む事業・プログラムとリンクした募金活動を進める。
- ③ 新たに法制化される労働関連法に対応した規程を逐次整備するとともに、継続して職員の健康に配慮した働きやすい職場環境づくりに努める。また、奨学金返還支援事業に事業所登録し新卒者の採用強化を図る。
- ④ コロナ対応と各種業務の効率化を目指し、ICT 環境の整備を進めるとともに、新会員管理システム Y-Link への移行準備を進める。
- ⑤ オンライン等を活用して全国 YMCA の各種会議・研修に積極的に参加する。

### (2) 会員活動の活性化

- ① 会員同士の交流、担い手会員の育成、ネットワークづくりを目指し、道内及び全国関連会議・研修・集会等に、役員、スタッフの対面・オンライン等による参加を奨励する。
- ② 委員会活動の次期改選期を見据え、委員候補となるユース、女性、キリスト者のリクルートを進める。

### (3) 募金の強化と支援活動の継続

- ① 国際協力募金、ユース育成基金などの寄附金活動のネット募金化を図るとともに、地域課題の解決に取り組む事業・プログラムとリンクした募金活動を進める。

#### **(4)将来計画の遂行に向けて**

- ①札幌ランチは、札幌ランチ会館建設委員会とコンサルとの協働により、会館建設基本計画を策定し、事業計画、資金計画、代替え施設の確保等の課題をクリアし、次の段階へと歩みを進める。
- ②とかち帯広ランチは、小規模保育事業・認可外保育事業の安定運営を目指すとともに、帯広市内への拠点開発を見据え、指定管理事業への申請を検討し準備を進める。
- ③北見ランチは、現行認可外保育施設と認可小規模保育所を含めた新たな認可保育園、さらに認定こども園への移行を検討し、青少年事業と両立できるランチ構想の策定を進める。